

博士前期課程（修士） / 実践看護学領域 / 成人看護学分野

科目コード：240003-1

# がん看護学演習 I Oncology Nursing I

担当教員 牧野 智恵、松本 勝、今方 裕子、新井田 要、村上 真由美、上埜 千春、久村 和穂

実務経験

開講年次	1年次前期	単位数	2	授業形態	講義・演習
必修・選択	選択	時間数	30		

Keywords 薬物療法、症状マネジメント

学習目的・目標

学習目的：  
がん薬物療法と療養過程のマネジメントについて学び、Evidence based practice  
のために必要な知識を習得する。

学習目標：  
1. がん薬物療法の効果と有害事象のメカニズムについて理解できる。  
2. がん薬物療法中の患者へのEvidence based practice のために事例を通して、ケアとキュアの融合ができる。  
3. がん薬物療法中の患者に生じる粘膜障害の支援を理解する。

## 授業計画・内容

回	内容	授業方法	担当
1-2	がん薬物療法と予防メカニズム	講義・討議	牧野
3	消化器・呼吸器がん薬物療法と療養過程のマネジメント 大腸がん・胃がん・肺がん患者のEvidence based practiceのための事例分析 ①大腸がん・胃がん・肺がん；事例から現病歴、病理・画像診断、看護情報などから アセスメントし、必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断を討議する ②専門看護師の立場から治療の意志決定、化学療法中の支持療法、多職種との協働の あり方について	講義・討議	今方・牧野
4-5	造血器腫瘍薬物療法（造血器幹細胞移植を含む）と療養過程のマネジメント ①白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫；事例から現病歴、病理・画像診断、看護情 報などからアセスメントし、必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断を討議す る ②専門看護師の立場から治療の意志決定、化学療法、緩和ケアのチーム体制との協働 のあり方について	講義・討議	上埜・牧野
6-7	乳がん・生殖器系がん薬物療法と療養過程のマネジメント ①乳がん・生殖器系がん；事例から現病歴、病理・画像診断、看護情報などからアセ スメントし、必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断を討議する ②専門看護師の立場から治療の意志決定、化学療法中の支持療法、緩和ケアのチ ーム体制との協働のあり方について	講義・討議	村上・牧野
8-9	がん治療に伴う便秘のある患者への支援 ・便秘の診断・アセスメント ・AIを用いた測定	討議	松本勝・牧野
10-11	化学療法を受けているがん患者の経済上の問題、および医療・福祉施策について	講義	久村・牧野
12-13	遺伝性腫瘍の患者の診断と支援  ・最新の遺伝治療と検査  遺伝カウンセラーとしての役割と機能	討議	新井田・牧野
14-15	がん化学療法を受ける患者へのマネジメント ①化学療法を受ける患者・家族への困難な事例を討議し、マネジメントについて理 解を深める	討議	牧野

教科書

参考図書等

・鈴木志津枝、小松浩子 監訳 「がん看護PEP リソース」医学書院、2013年  
・西条長廣監修；EBM がん化学療法・分子標的治療法、中外医学社、2015年

	・小島美佐子・佐藤麗子監訳；がん看護 コアカリキュラム、医学書院、2008年
評価指標	各セッションの準備状況と学習への取り組み(40%)、事例分析時の発表・質疑応答内容(40%)、レポート(20%)によって評価する。
関連科目	がん看護学演習Ⅱ
教員から学生へのメッセージ	①事前に配布される事例あるいは講師からの事前課題については、Evidence based practice のためのステップに沿ってあらかじめ分析しておくこと。 ②自らのケア経験も交えて積極的にディスカッションしましょう。